

氏名	時岡浩二
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5035 号
学位授与の日付	平成 26 年 9 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Electrocardiographic Parameters and Fatal Arrhythmic Events in Patients With Brugada Syndrome Combination of Depolarization and Repolarization Abnormalities (Brugada症候群患者における心電図指標と致死性不整脈イベントの関連検討 脱分極異常と再分極異常の併発)
--------	--

論文審査委員	教授 佐野俊二 教授 成瀬恵治 教授 大月審一
--------	-------------------------

#### 学位論文内容の要旨

Brugada症候群患者における心室細動の発症予測を非侵襲的検査で見出すことは重要な課題となっている。現在までに様々な脱分極異常、再分極異常の心電図指標は報告されているが、心室細動発症につながる心電図指標の関連性についてはまだ明確ではない。

目的：この研究はBrugada症候群患者における心室細動の発症のリスクになる心電図指標を見出すことを目的とした。

方法：246人のBrugada型心電図を呈した患者を解析した。平均45.1カ月の追跡期間中に23人に心室細動が起こり、1人が突然死した。我々は心室細動、突然死が起こった群と起こらなかった群と比較検討した。

結果：単変量解析で心室細動の既往、失神の既往、発作性心房細動、spontaneous type 1 心電図、QRS幅の延長、fragmented QRS、下壁側壁誘導の早期再分極、QT間隔の延長を有する患者に、多く心室細動がみられた。多変量解析において、心室細動の既往、失神の既往、下壁側壁誘導での早期再分極、fragmented QRSが心室細動発症の独立した予測因子であることを示した。また再分極異常の指標である下壁側壁誘導の早期再分極と脱分極異常の指標であるfragmented QRSが併発している場合、心室細動の発症のリスクは非常に高く、反対に両方とも存在しない場合は、心室細動の発症は非常に少なかった。

結論：Brugada症候群患者において、脱分極異常と再分極異常の併発は心室細動発症の高リスクであり、Brugada患者のリスク評価に有用である。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、Brugada 症候群患者における心室細動の発症予測を非侵襲的検査で見出す試みをしたものである。脱分極異常 (fragmented QRS:f-QRS)、再分極異常 (早期再分極(ER)) などの心電図指標は単独での危険因子として報告されているが、今日の研究では f-QRS と ER の併存症例では致死性不整脈が発生する可能性が非常に高く、一方 ER と f-QRS の両者とも存在しない場合には、致死性不整脈は非常に少ない事が分かった。

Brugada 症候群患者において、f-QRS と ER の併存を心誘導心電図で観察することにより、心電細動発症のリスク評価に有用であることを初めて示した価値ある業績である。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。